

私のはんせい記

～「改修設計」事始め～

建築家 三木 哲

●新しい酒は新しい革袋に盛れ

私は建築運動を創り関わってきた。

その運動とは、建築のメンテナンスを普及させ、既存建物の耐震性能や居住性能等を向上させることである。

1960年代、建築を目指す学生は建築家のアトリエや設計事務所ですれ交ひ、修業を積み、建築家になることを目指していた。

1970年代、建築を目指す若者を修行の名のもと低賃金で働かせる建築設計事務所に労働組合が結成され、労働争議が多発した。

1980年代、住宅公団が分譲した団地の施工不良が社会問題化し、鉄筋コンクリート造建物の計画修繕が求められるようになった。

当時、建築界は新築の設計に関心があり、建築後の維持保全には関心を示さなかった。

私も既存建物の修繕の経験も少なく、見よう見まねで外壁や屋根防水の修繕に挑戦した。

創設した設計事務所を「共同設計」と命名した。物造りはいろいろな人との共同作業で作り出されるものであると考えからである。

JIAメンテナンス部会では発足当初から会員同士、共同で管理組合から業務を受託した。

建物の経年劣化現象を調査し、放置するとどうなるかを考え、建物を長持ちさせる修繕の方法を仕様書にまとめ、管理組合員と協力し、計画修繕工事を実施した。

今井俊一、故・田辺邦男、故・近藤武志らと共同受注し、その後、故・岸崎隆生、竹田恭子、柴田幸夫とも一緒に業務受託し、またメンテナンス部会員同士でも、集合住宅管理組合から多くの相談依頼を受け、修繕設計を実行し、修繕工事共通仕様書を部会員で作成した。

行為の協働性による関係性の革命。

これは運動体と構成する個人の関係の発展のダイナミズムを示した考え方である。

メンテナンス部会員や共同設計のスタッフは管理組合の修繕を積み重ねていくに従い、共通する方向と考え方は明確になり、体系化し高度化していった。



毎年、春に新宿御苑の花見会、秋に花園神社のお西様に、共同設計はOBと合わせて集まっている。

2008年春共同設計 新宿御苑花見会

20世紀末から21世紀にかけて、時代はフローからストックに転換し、メンテナンス部会は、旧来の建築家と異なる修繕・改修を担う建築設計集団としての社会的地位を確かなものとしていった。

一方、阪神大震災と耐震改修促進法や品確法は、メンテナンス部会を超える新たな建築運動と組織を求めた。

耐震改修促進法や品確法が目指す分野を切り開くには新たな運動と組織が必要であった。

経年劣化に対し計画修繕により建物の耐久性を伸ばす建築家中心のメンテナンス部会の活動に対し、耐震性能や温熱環境などの性能向上を求める改修設計が法律で規定された。

既存建物の耐震性能やエネルギー消費性能を定量化し、性能向上の目標を数値化した改修設計を行い、その結果を客観的に評価する改修設計システムと運動体・組織が求められた。

改修を目指す構造家や設備技術者との協力と共同作業は不可避であった。

「新しい酒は新しい革袋に盛れ」

経験を積んだ改修設計建築家集集団は、改修設計を目指す構造家や設備技術者と耐震設計者連合を立ち上げ、その後JASO、URDに発展させた。

異なる専門分野の協働による総合的耐震改修設計者組織の創設と、東京都杉並区を始めとする自治体による民間建築の耐震診断、補強の助成制度の普及・拡大は、新たな運動体と組織を今も成長発展させ続けている。

みき・てつ

（共同設計・五月社一級建築士事務所顧問。1943年生まれ。

URD・建築再生総合設計協同組合・管理建築士。

建築家がメンテナンスを手がけることなど考えられなかった時代から「改修」に携わり、40年以上にわたって同分野を開拓し続けてきたバイオニア。